

(日) 服部宇之吉 編

漢文大系

21



四川大學出版社

域外漢籍叢刊

(第二十一冊)

漢文大系



四川大學出版社

第二十一冊

管子纂詁（二十四卷）安井衡 纂詁

晏子春秋（七卷）小柳司氣太 校訂

七四七

一

管子例言

本書原文ノ底本トシタル者ハ、安井息軒ノ管子纂詁ノ外、左ノ數種ヲ用フ。

(イ) 管子二十四卷四本(正文ノミニシテ、卷初ニ司馬遷ノ管仲傳ヲ載ス、明版ナルモ、其年月明ナラズ)

(ロ) 管子全書二十四卷五本(六子全書ノ一、舊注(房劉二氏)ノ外、張榜、朱長春ノ評ヲ加フ、卷首ニ朱長春ノ序アリ、次ニ司馬遷管仲傳、及劉向管子序錄アリ、明版ナルモ、其年月明ナラズ)

(ハ) 管子擁二十四卷四本(朱長春ガ房注ニ其擁ヲ加ヘタル者ナリ。卷初ニ、朱長春ノ序、趙用賢ノ序、劉向序錄、楊忱序ヲ掲ゲ、次ニ朱氏ノ凡例アリ。次ニ管子文評トシテ劉勰ヨリ張嶠ニ至ルマデ諸家ノ評ヲ收ム。明版ナルモ、其年月明ナラズ)

(ニ) 管韓合纂二卷二本(管子ノ文ヲ節錄シタル者ニシテ趙用賢ノ編ニ係ル。張榜ノ評ヲ載ス。明版ナルモ不明)

(ホ) 管子(坊間和版ニテ廣ク行ハル、管子全書ノ原本ニシテ、是迄ノ諸注ヲ網羅シタル者ナリ。即チ房劉二家ノ外ニ、朱長春ノ通演、沈鼎新、朱養純ノ參評、朱養和ノ輯訂ヲ經タル者、卷初ニ朱養純ノ序、郭正域ノ序、沈鼎新ノ序、趙用賢ノ序アリ。明版ナルモ、其年月不明)

(ヘ) 詮叙管子成書十五卷首一卷(梅士亨ノ編ニシテ、卷初ニ賈毓祥、王公弼及ビ自序二篇アリ。其次ニ劉向序錄、及自選ノ管子尊攘傳、楊悅序アリ。其次ニ管子文評トシテ、劉勰ヨリ趙用賢ニ至ル迄ノ評ヲ蒐集シ、又本書凡例數則ヲ掲グ。而シテ本篇ノ篇次ハ、舊ニ由ラズシテ、立政第六ノ次ニ、立政九敗解ヲ序スルガ如ク、スペテ、解ヲ其本篇ノ下ニ列ス。注釋ハ房注ヲ用ヒテ、自說ヲ添

フ。明版ナルモ其年月不明)

(ト) 管子全書二十四卷十二本(卷首ニ、我邦武欽絲ノ序アリ。次ニ朱養純・郭正域、沈鼎新、趙用賢ノ序、朱養和ノ管子凡例、司馬遷ノ管子本傳、我國村瀨榜亭撰ノ重訂管子後序ヲ載ス。本文ハ(ホ)ノ管子ト同シ)

(チ) 管子二十四卷五本(清版ノ影宋本ニシテ、卷首ニ楊忱ノ序アリ。卷末ニ張嶠ノ讀管子、瞿氏書目、黃丕烈ノ跋アリテ、最後ニ戴望ノ識語アリ。本文ハ房玄齡ノ注ヲ載スノミ)

本書ノ頭注ハ、息軒ノ纂詁(此書ハ、後ニ考譏一篇ヲ附シテ、正誤表ヲ掲グ。又補正一篇ノ附錄アリテ、正誤ノ外、更ニ解釋ノ異ナル者アルヲモ並收ス。今本書ヲ出版スルニ際シ、考譏及ビ、補正中ノ單純ナル正誤ニ屬スル者ハ、直ニ其原文ヲ改メ、其解釋ノ異ナル者ハ、前注ノ後ニ補字ヲ挿記シ、其下ニ之ヲ收ム)ニ本ヅ

ク所多シト雖モ、亦實ニ左ノ諸種ヲ用フ。

(イ) 尹說……房玄齡注、即尹知章ノ注、

(ロ) 劉說……劉績ノ増注、

(ハ) 梅說……梅士亨ノ說、

(ニ) 朱說……朱長春ノ說、

(ホ) 趙說……趙用賢ノ說、

以上五種ハ、底本トシテ參照セシ者ヨリ採錄ス。

(ヘ) 洪說……洪頤煊著管子義證八卷二本(本書ハ自說ノ外ニ
孫星衍ノ說ヲモ引ク、孫說ト稱スル者即是ナリ)

(ト) 王說……王念孫讀書雜志中ノ管子十二卷二本(其子王引
之ノ說ヲモ並錄ス。之ヲ別ツニ、王(引)ヲ以テス)

(ナ) 俞說……俞樾諸子平議中ノ管子六篇、

(リ) 戴說……戴望管子校正二十四卷四本(本書ハ王俞兩氏ノ

説ヲ主トシテ、之ニ加フルニ、張文虎、丁士涵、陳奐、俞正燮、宋翔鳳、吳士忠、藏鏞、洪頤煊諸家ノ説ヲ蒐錄シ、往々加フルニ自説ヲ以テス。蓋シ管子注中ノ最モ便利ナル者ナリ。丁氏以下ノ

説ハ、皆標スルニ其姓ヲ以テス)

莊說……莊述祖弟子職集解一篇

洪說……洪亮吉弟子職箋釋一篇

張說……張紹蘭管子地員篇四卷

孫詒說……孫詒讓札箋中ノ一篇

猪說……猪飼敬所管子補正二卷二本

冢說……冢田大峯管子牋注二卷二本

但シ紙幅狹隘ニシテ、以上ノ諸説モ、唯結論ノミヲ記シ、其前提タル音韻學、金石文等ニ關スル徵證アルモ、盡ク之ヲ收ムルコト能ハズ。其他、周禮左傳國語史記等ヲ參考シテ、得ダル結果モ、皆之ヲ

藏シテ他日ノ出版ヲ待ツ。唯卷末ニ於テ、史記管晏列傳、劉向序錄、及ビ趙用賢序ヲ載セテ備考ニ供ス。

大正四年十月

校訂者 小柳司氣太識

管子解題

其一管仲ノ傳

管仲ノ傳ハ、史記管晏列傳ニアルヲ以テ、茲ニ再説セズ(本書ノ附錄ヲ看ヨ)今左傳史記齊世家等ニ本ヅキ、左ノ表ヲ作り、以テ参考ニ供ス。之ニ由ルトキハ、管仲ノ桓公ヲ輔佐シタルハ、四十年間ニシテ、其享年明ナラズト雖モ、少クトモ七十歳以上ニ達セシナラン、史記本傳ノ索隱ニ、其子孫十餘世ノ名ヲ掲ゲ、又左傳成公十一年ニ管子奚アリ、哀公十六年ニ管修アリ。

周	魯	齊
十莊王	八莊公	十襄公
十二九	元桓公	齊ノ無知、其君襄公ヲ弑シテ自立ス、襄公ノ弟糾、其傅召忽管仲ト魯ニ奔リ、小白、其傅鮑叔ト莒ニ奔ル。
十三	二	齊人無知ヲ殺ス、糾、小白國ヲ争ヒ、糾敗レテ死ス、召忽之ニ殉ス、管仲執ハル、小白之ヲ釋シテ相トナス、小白位ニ即ク、之ヲ桓公トナス。
		魯齊ヲ長勺(魯ノ東北境)ニ敗ル、齊譚國(山東省濟南府歷陽縣東南七十里ニ在リ)ヲ滅ス。

十五	十二	四	宋ノ南宮萬、其君潘公ヲ弑ス。
元僖王	十三	五	齊、諸侯ヲ北杏(山東泰安府東河縣境ニアリ)ニ會シテ、宋ノ亂ヲ定ム、齊、魯、柯(兗州府陽城縣東北五十里ニアリ)ニ盟フ、公羊傳、史記刺客列傳ニ、曹沫ガ桓公ヲ劫カセシコトヲ載スルモノ、謬傳ナリ。
二	十四	六	宋、盟ニ背ク、齊諸侯ヲ會シテ、之ヲ征服シ郵(山東曹州府濃州ノ東三十里ニアリ)ニ盟フ。
三	十五	七	復ビ郵ニ會ス、左傳ニ曰ク、齊始メテ霸タリト。
四	十六	八	齊、諸侯ト幽(歸德府考城縣境ニ在リ)ニ盟フ。
惠王	二十	十二	齊、戎ヲ伐ツ。
五	二十二	十四	魯齊ト防(沂州府費縣ノ東北六十里ニアリ)ニ盟フ、尋ギテ魯公齊ニ朝ス。
十一	二十八	二十	齊、衛ヲ伐ツ。
十三	三十	二十二	齊、山戎ヲ伐ツ。
十五	三十二	二十四	齊、小穀(濟北穀城縣中ニアリ)ニ城キテ管仲ニ賜フ。
十七	閔公 二十六年	二十六	齊、衛國ヲ再建ス。

十八	元僖公	二十七	齊、邢國ヲ再建ス。
廿一	四	三十	齊、蔡ヲ侵シ、遂ニ楚ヲ伐テ、召陵ニ盟フ。
廿二	五	三十一	齊、諸侯ト首止(歸德府睢州縣ノ東南ニアリ)ニ盟フ。
廿三	六	三十二	齊、鄭ヲ伐チテ新城(河南許州府密縣ノ東南二十里ニアリ)ヲ圍ム。
廿五	八	三十四	齊、諸侯ト洮(山東曹州府濮州ノ西南五十里ニアリ)ニ盟フ。
廿六	九	三十五	齊、諸侯ト葵丘(河南省歸德府内)ニ盟フ。
二襄王	十	三十六	管仲入朝。
七	十五	四十一	管仲卒。
九	十七	四十三	桓公薨ジテ、五公子立ソコトヲ争ヒ、國大ニ亂ル。
(莊公十三年ノ北杏ノ會、僖公四年ノ蔡ヲ侵シ、楚ト召陵ニ盟ヒシコト、六年ノ鄭ノ新城ヲ圍ミシコトヲ、兵車之會三トイヒ、莊公十四年ノ鄄、十五年ノ鄄、十六年ノ幽、僖公五年ノ首止、八年ノ洮、九年ノ葵丘ヲ乘車之會六トイヒ、總ベテ九合天下ト謂フ。穀梁傳ニハ衣裳之會十有一トイアリ。一說ニ、九合ハ糾合ナリト)。			
其二管子ノ由來			

管子ノ書ハ、劉向序錄ニ、八十六篇トナスコト、今本ト同ジ(本書附錄ヲ見ヨ)之ヲ分チテ、
經言九篇、外言八篇、內言九篇、短語十九篇、區言五篇、雜篇十一篇、管子解三篇、管子輕重十
九篇トナシ、中ニ就キテ、內言ノ王言及ビ謀失二篇、短語ノ正言、雜篇ノ言昭、修身、問霸三
篇、管子解ノ牧民解、輕重ノ問乘馬、輕重丙、輕重庚三篇、及ビ經言ノ幼官圖合シテ十一篇一
圖ヲ失フ。又文選陸機猛虎行ノ李善注ニ、江邃カ管子ノ文ナリトシテ、夫士懷耿介之心、
不蔭惡木之枝、惡木尙能恥之、況與惡人同處ノ四句ヲ載スルモ、今本ニ之ナシ。又封禪書
ハ、司馬遷史記ニ記スル所ノ管子ノ言ヲ以テ、之ヲ補フ。又藝文類聚八十二、周容子夏、侈
靡ヲ以テ桓公ニ見ユルコトヲ載ス。初學記二十六、白帖九十七、御覽八百九十二ニ、武王
侈靡ヲナスヲ引ク、恐クハ本書侈靡第三十五ノ缺文ナルベシ。又史記貨殖傳正義、御覽
三十六、山海經中山經ニ、本書地數篇ノ佚文ト覺ボンキ者アリ。然ラバ則チ其闕文脱簡
アルコト久シ。

管仲ガ果シテ本書ヲ著ハシシカ否ヤニツキテハ、諸說一定セズ。今文献通考經籍考第
三十九ニヨレバ、晁公武ハ杜祐指略ヲ引キテ、本書中管仲臨終ノ事アレバ、其著ニ非ズ
トイヒ、葉水心ハ一人ノ筆ニ非ズ、一時ノ書ニ非ズト云ヒ、毛嬃西施四稱第三十三)吳王
好劍云云(七臣七主第五十二)ハ皆管子以後ノ事ナリトナス尙ホ其他之ガ徵證トナス

べき者頗ル多シ又唯ダ經言九篇ヲ以テ管仲ノ自著トナス者アルモ更ニ之ヲ檢スレバ立政第四篇九敗ノ條ニ寢兵之說勝則險阻不守兼愛之說勝則士卒不戰全生之說勝則廉恥不立私議自貴之說勝則上令不行云々トアリ寢兵ノ說ハ莊子天下篇ニヨルニ宋餅尹文禁攻寢兵ノ文アリ兼愛ハ墨子ノ所說ニシテ全生ハ楊子ノ主義タリ私議自貴ハ處士橫議ノ謂ナリ又乘馬第五ニ皇帝王霸ノ辨アル時ハ皆孔子以後戰國ノ末ニ起リシ者ナレバ經言ト雖モ盡ク管仲ノ自著トナスベカラザル者アリ若夫レ輕重第九ノ山至數第七十六ニ今有海內縣諸侯ノ語ノ如キハ秦始皇一統ノ前後ニ屬スベキコトナルベシ又他ノ古典ニシテ本書ト出入スル者ヲ見ルニ外言ノ大匡第十八中匡第十九小匡第二十ノ齊語ニ於ケル戒第二十六ノ孟子梁惠王下及晏子春秋ニ於ケル短語ノ四時第四十五行第四十一ノ月令ニ於ケル勢第四十二ノ越語ニ於ケル明法第四十六ノ韓非子有度篇ニ於ケル雜篇ノ九守第五十五ノ六韜及鬼谷子ニ於ケル輕重ノ地圖第五十八ノ周禮地官ニ於ケル地數第七十七ノ山海經ニ於ケル即是レナリ又編纂ノ體ヲ見ルニ大匡中匡小匡等ハ固ヨリ後人ガ管仲ノ功業ヲ記録セシ者ニシテ其管子解ト稱スル者モ亦其學派ノ筆ナルコト固ヨリ疑ヲ容レザルナリ且又短語ノ心術上第三十六同下第三十七兩篇ハ區言ノ内業第四十九ト重複シ而シテ更ニ漢志

儒家ヲ見レバ、内業十五篇ノ目アル時ハ、或ハ其殘缺ニ非ルカ、侈靡第三十五ノ中寢諸子ノ話ハ、戒第二十六ニ見ハレ、戒ノ桓公明日弋在廩ハ、又霸形第二十七ニ見ユ、又輕重ノ臣乘馬第六十八、乘馬數第六十九ハ、本是レ一篇ノ文ナルベキカ。

カク論ジ來ル時ハ、管仲ノ自著ト云フ者アランモ之ヲ明ニ摘出スルコト頗ル困難ナリ。唯、莊子至樂篇ニ於テ、管子ノ言ナリトシテ、精小者不可以懷、大、纏短者不可以汲、深ヲ載セ、又史記ニ於テ、牧民篇第一ノ數句ヲ引證シ、又贊ニ、吾讀管氏牧民、山高、乘馬、輕重、九府及晏子春秋ノ文アルヲ以テ、多少ノ著述アルヲ想像スルニ止マルノミ。蓋シ思フ、後人ノ管仲ガ功業ヲ欽慕スル者之ヲ擴大ニセント欲シ、或ハ之ヲ解釋シ、或ハ他ノ古典ヲ附加セシ者ニアラザルナキカ。故ニ輕重諸篇ノ如キハ、固ヨリ猥雜ニシテ論ズルニ足ラズ。又參患篇内ノ數語ハ、漢書鼃錯傳ニ引クモ之ヲ冒スニ「兵法曰」ヲ以テス。弟子職ノ如キモ、管子ガ教育ニ應用シタル者ナリト曰ハニヨリモ、寧口後人ガ管子ノ教育行政ヲ忖度シテ、之ヲ増加編入セシ者ナルベシ。要スルニ、本書ハ極メテ雜駁ニシテ純一ナラズ。其内容モ、政治經濟道德等ニ及ビ、嚴正ナル本文批評ノ立脚地ヨリ觀ル時ハ、書中ノ思想ガ何時頃起リシカヲ決定スルコト、頗ル困難ナル者アルヲ覺ユ。

管子ノ注釋ハ、唐ノ房玄齡ヲ以テ始トナス。然レドモ、唐書藝文志ヲ案ズルニ、房玄齡ノ

著ニ非ズシテ、尹知章ノ著ナルコト明ケシ。然レドモ、其文淺陋ニシテ採ルニ足ラズ。明ニ至リテ、劉績其補注ヲ著シ、趙用賢マタ之ヲ訂正ス。然レドモ、之ヲ他ノ諸子ニ比スレバ、學者ノ研究ヲ經ルコト少キヲ以テ、文字ノ訛謬、章句ノ變亂、自ラ甚シ。黃慈溪ノ日抄分類第五十五、スデニ之ヲ論ジ、明代ニ於テ、朱長春、梅士亨等ノ選アルモ、其文章ヲ評スルニ非レバ、私意ヲ以テ篇章ヲ割裂スルノミ。清朝ニ至リ、王念孫父子、洪頤煊諸氏等起リテ、本書始メテ明カナリ。

管子ノ我國ニ渡來セルハ、何時頃ナルカ明ナラズト雖モ、日本現在書目法家ニ、管子二十卷ヲ錄ス。然ルニ、現今通行ノ和版管子全書ト稱スル者ハ、蕪雜ニシテ讀ムニ堪ヘズ。例スレバ、牧民第一ノ上明度則六親固ノ房注ト稱スル者ノ一半ハ、梅士亨ノ說ナリ、又形勢第二ノ末句タル有國者之大禁也ノ房注ト稱スル者モ、本ト之レナキ者ナリ。其他魯魚ノ訛謬數へ難シ。近年ニ至リ、猪飼敬所首トシテ秦蕪ヲ闡キ、安井息軒之ニ尋ギテ、塗徑始メテ通ゼリト謂フベシ。

其三 管子ノ學說

第一 政治學上ヨリ見タル管子。原始時代弱肉強食ノ世界ニ於テ、腕力知識優等ナル者アリ、衆人ヲ制シテ、之ガ爲ニ暴ヲ除キ利ヲ興ス。是ニ於テ、衆人之ヲ仰ギテ君トナス、是

レ實ニ國家ノ基源ナリ(君臣下第三十一)然レバ政治法律バ、則チ君主ガ人心ノ向フ所ニヨリテ、社會組織ヲ圓滿ニ維持センガ爲ニ設ケタル者ナリ、政治ナクンバ、人々各其私利私慾ヲ張リテ、一日モ安寧ヲ得難シ。

君主ハ法律ノ執行者ナリト雖モ、既ニ定メラレタル法律ヲ超越シテ、專擅ノ行ヲ爲スベキ者ニ非ズ。何トナレバ、法ハ天下ノ公道ニシテ、一人ノ私力ニ非ズ。任法篇第四十五ニ曰ク、君臣上下貴賤皆從法、此之謂大治。法法第十六ニ曰ク、不爲君欲變其令、令尊於君、ト。管子ハ法家者流ナリト雖モ、後世ノ申商韓非ト異ナル者三點アリ。其第一ハ法ヲ以テ徒ニ慘覈ノ者ト認メザルナリ。法法第十六ニ曰ク、法者民之父母也ト。其第二ニ輿論ノ權威ヲ認ム。君臣上第三十二ニ曰ク、民別而聽之則愚、合而聽之則聖ト。又九守第五十五ニ曰ク、以天下之目視、則無不見也、以天下之耳聽、則無不聞也、以天下之心慮、則無不知也ト。其第三ハ政治ノ目的ハ、單ニ君權ヲ張リ、武斷ヲナスニアラズ、人民ノ教化ヲ興シ、風俗ヲ美ニスルニ在リ。牧民第一ニ、禮義廉恥ヲ以テ國ノ四維トナス。何ゾ其我武士道ニ似タルヤ。權修第三ニ曰ク、厚愛利足以親之、明智禮足以教之、上身服以先之、審度量以閑之、鄉置師以說道之、然後申之以憲令勸之以慶賞、振之以刑罰、故百姓皆說爲善、則暴亂之行無由至矣ト。亦以テ其教化ヲ先ニシ、法刑ヲ後ニシタルヲ知ルニ足ルベシ。